

カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2019年1月26日～2019年2月1日の推移】

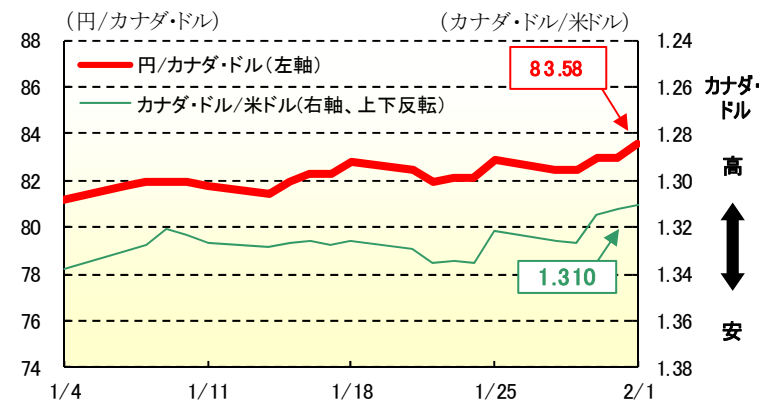
【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドルは、対円で上昇しました。カナダ5年国債利回りは低下しました。

先週、開催されたFOMC(米国連邦公開市場委員会)での声明で利上げペースの鈍化が示唆されたことから、米国の金利が低下し、カナダの金利もそれに連れて低下しました。カナダ・ドルは、原油価格の上昇などを背景に、対円で上昇しました。

また、11月のGDP(国内総生産)が発表され、前月と比べて景気が減速していることが示されました。しかし、市場はすでにそれを織り込んでいたため、市場に与えた影響は限定的となりました。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2019年1月4日～2019年2月1日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

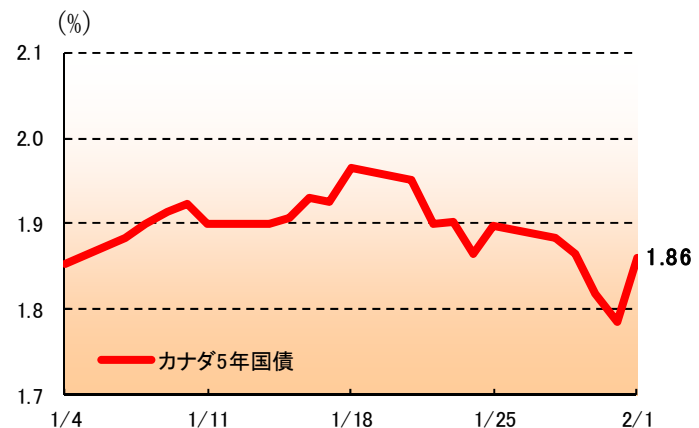
【2】今週の見通し

今週、カナダでは、雇用統計の発表が予定されています。失業率は2016年以降、低下傾向にあるなど、労働市場は堅調さを保っています。こうしたトレンドに変化がないかどうか確認をしたいと考えています。良好な結果となればカナダの通貨、金利の上昇圧力につながるが見込まれます。

足元の株価の動向ですが、FOMCでの声明や良好な雇用統計の結果を受けて上昇基調になっており、カナダの通貨を下支えすることが見込まれます。

また、原油価格に関してもOPEC(石油輸出国機構)の産油量減少などを受けて上昇しており、カナダの通貨、金利の上昇圧力になることが期待されます。

【カナダ 金利推移】 (2019年1月4日～2019年2月1日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <https://www.daiwa-am.co.jp/>